遠野市史編さん活動報告　Vol.15

2021年
8月

TOPICS　鍋城大学で講演を行いました

８月20日（金）、あえりあ遠野で高齢者教室「鍋城大学」の８月の講座が開かれ、市史編さん室の前川さおり次長が講師として招かれました。「昭和の歴史と文化～まちなか編～」と題し、『新編遠野市史 現代編』を編さんする過程で集めた写真を使って、昭和20年代から60年代までの出来事やまちなかの様子を紹介しました。参加者たちは、時折他の参加者と語り合いながら懐かしそうな様子で講座に聞き入っていました。

▲講演の様子

TOPICS　文化財レスキューについて講義を行いました

◀ページごとにキッチンペーパーを挟み、資料の水分を吸収させる

新聞紙で包み、▶圧縮袋に入れて空気を抜く。余分な水分が抜けるまで、この作業を繰り返す。

毎年８月の下旬は、遠野市立博物館で博物館実習生の受入を行っています。そのカリキュラムのひとつとして、文化財レスキューにおけるスクウェルチ・パッキング法について前川さおり次長が講義を行いました。

スクウェルチ・パッキング法は、災害等によって水損してしまった文書や書籍を脱水する方法で、家庭にある道具でできるのが特徴です。水に濡れた資料は腐敗やカビ発生が進むため、早急な乾燥処理が必要なことから、東日本大震災や平成28年（2016）の台風10号災害で被災した資料にもこの方法が使われました。

実習生らは、ページごとに丁寧にキッチンペーパーを挟み込み、圧縮袋に入れて空気を抜く過程を慎重に行っていました。

編さん室日記

お盆も過ぎて秋の足音が近づいてきました。同時にやってくるのが秋雨前線と台風シーズン。雨の際にはよく雷も発生しますが、皆さんはいわゆる「雷」を何と呼びますか？「かみなり」「いなづま」「らいさま」などの呼び方があり、遠野の方言をまとめた本には「レェサマ」「レァサマ」と載っています。今はこの方言を使う方は少ないかもしれませんね。

気象庁によると、年間の雷日数（雷を観測した日の合計）の平年値（1991～2020までの30年間の平均）で一番多いのが石川県金沢市で45.1日！これは夏だけでなく冬も発生数が多いためだそうです。また落雷害のうち約30%が８月に集中しており、夏は太平洋側で、冬は日本海側で被害が多いそうです。

雷が近づいて来たら、鉄筋コンクリート建築や自動車など安全な場所に速やかに避難しましょう。木造建築の内部も基本的に安全ですが、すべての電気器具、壁から１m以上離れるとさらに安全です。　参考・出典：気象庁ホームページ

雷神の石碑

資料紹介

◀右から
土淵町飯豊
綾織町上綾織（愛宕神社）
宮守町下鱒沢（向落合）

雷神とは、雷鳴と稲妻を神格化したもので、稲の豊作をもたらす神、水をもたらす神として崇められてきました。私達には「おなかを出していると、へそをとりにくる神様」といったほうが馴染み深いでしょうか。遠野市内には各所に雷神の碑が祀られています。

岩手県内では、特に県南地方で雷神を祀った石碑が多く見られます。かつては、落雷した場所に石碑や祠をたてて祀り、それが水田であっても落雷の跡を残し、決して耕したり苗を植えたりはしなかったといいます。

宮沢賢治の歌曲「種山ヶ原」にも「繞（めぐ）る八谷（やたに）に霹靂（へきれき）＊の　いしぶみしげきおのづから」（種山の周辺の谷には、自ずと雷神の石碑が多い）とうたわれています。種山の麓（ふもと）の小友町外山地区では、「雷神様のお神酒」と称して地区民が集まり、お神酒をお供えする行事があるほか、森口多里（もりぐちたり）著『日本の民俗　岩手』（1971）には、江刺の玉里地区や伊手地区など各地に雷神を祀る講＊があると記録されています。

◀各地の雷神の碑。
上段左から
宮守町下鱒沢（愛宕神社）
土淵町柏崎
土淵町土淵

下段左から
土淵町柏崎（須崎）
土淵町柏崎（水内）

また、雷神に対する信仰としては、菅原道真（すがわらのみちざね）を天神様として祀る「天神信仰」があります。

菅原道真（845-903）は、平安時代に中流貴族の学者の家系に生まれましたが、宇多（うだ）天皇の信任を受け右大臣まで昇任しました。しかし、他の貴族たちの妬みを買い、大宰府（だざいふ）（現在の福岡県）へ左遷されてしまいました。失意のうちに没した後、都では疫病や天災が起こり、道真の左遷に関与したとされる人物が次々と死去したため、人々は道真の怨霊（おんりょう）による祟りだと恐れました。さらには延長８年（930）清涼殿（せいりょうでん）＊への落雷により公卿（くぎょう）らが焼死、そのショックから醍醐（だいご）天皇も崩御する事件がありました。

この事件から道真の怨霊は雷神の性格を帯び、さらに北野天満宮（京都市）に祀られ天満天神（てんまんてんじん）と称されたことから、雷神信仰と天神信仰が結びついたのです。鎌倉時代以降は道真が学問に優れていたことから学問の神と崇められるようになり、全国で「天神様」として祀られるようになりました。

また、道真の誕生日が６月25日、命日が２月25日でともに25日であったことから、江戸時代には毎月25日が天神様の縁日とされていました。江刺の雷神講や「雷神様のお神酒」も６月25日前後に行われていることから、一見単独の雷神信仰のようでも、天神信仰と結びついているのがわかります。

【参考文献】『天神信仰』村山修一／編　1983、『日本の民俗　岩手』森口多里 1971、『いしぶみの岩手』小島俊一 1992、『岩手民間信仰事典』岩手県立博物館／編 1991、「石碑調査報告書」遠野文化研究センター 2014-2020　ほか

用語解説

＊霹靂…へきれき。雷のこと。
　古くはかみとけ、かんとき、などとも。
＊講…こう。
　信仰を同じくする者や経済上の目的から結ばれた集団。庚申講や無尽講など。
＊清涼殿…せいりょうでん。
　平安京内裏の天皇の日常の居所。

編集・発行　遠野市民センター市史編さん室
〒028-0515　岩手県遠野市東館町３番９号（遠野市立図書館・博物館内）
TEL:0198-62-2340　FAX:0198-62-5758